

Money meets the Int

執筆

榊山 寛

masuyama@dabb.com

㈱タブ代表取締役、
メディア環境研究者
99年はプロデュースしたゲーム
がNINTENDO64、プレステで発売
URL <http://www.masuyama.com/>

監修

リチャード・マイケル・
ナッシュ

Private Assets Limited 取締役社長
国際金融の専門家として、
国際資産運用に関する
コンサルティングや
講演などを行っている

実践！インターネットユーザーのためのマネー入門



インターネットが日本の投資を変える。
マイクロソフトでもアップルでも、
史上最高値に沸く米国株を
自分のデスクトップから
リーズナブルな手数料で
簡単に売買できてしまうのだ。
いま話題のオンライントレーディングを
今月から2回に分けて詳しく解説する。
今回は口座開設の申し込みから資金の送付まで。

この記事は特定の金融商品への投資を勧誘するものではありません。
運用は目的を持って自己責任で行ってください。

Chapter 3 インターネットユーザーにぴったり オンライントレーディングで米国株を購入！

口座開設編

米国株(ダウ平均)は、 過去8年で3倍に上昇！

株の売買について、どういったイメージをお持ちだろうか。ギャンブルのようなもの、元本保証がなくハイリスクなもの……。そういう側面がまったくないとは言えない。こうしたネガティブな印象は、バブル崩壊以降の日本国内の状況からイメージされたものではなく、実際に日経平均株価は、バブルのピーク時から3分の1近くまで落ちてしまっている。

一方、株に積極的な興味がない人でも、アメリカの株価がここ7～8年、右肩上がりで見られていることはニュースなどでご存じだろう。NYダウ平均は91年の水準と比較すると3倍以上に上がっているのだ(右グラフ参照)。この状況こそが米国のバブルだという見方もあるが、米国では個人資産の6割近くが投資信託や株式に流れ込み、それが経済全体の活況を生んでいることは事実だ。

日本の銀行による貸し渋り状況とは逆に、個人が株式市場に積極的に投資することで、情報産業などの新しいビジネスが育ちやすい土壌が作られているのだ。

米国株でグローバルな ビジネス感覚を磨く

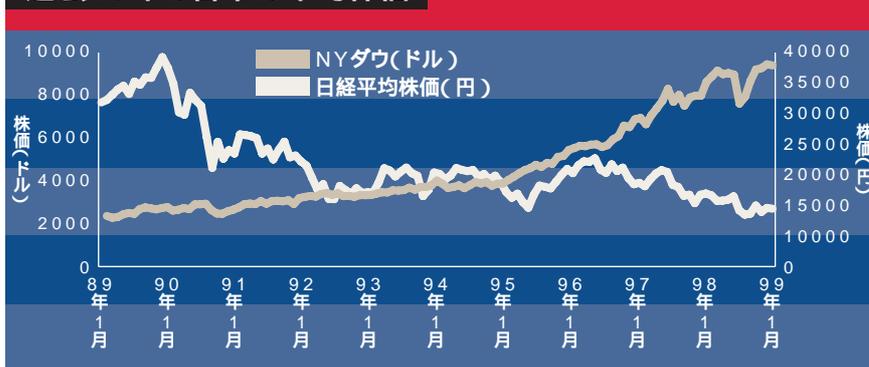
米国における株式市場が、日本のそれと異なるのは価格の上昇だけではない。そこには、アップトゥデートでグローバルなビジネス状況が凝縮されているのだ。公開されている株の銘柄数は、日本の三千数百に対して、米国では地方や外国銘柄も含めると約1万4000。その中には、宇宙産業や先端的なバイオ技術など、日本では産業自体が成立していないものもあり、非常にバラエティーに富んでいる。

経営方針そのものも、シェアよりも利益率重視、実績を上げられないトップはすぐに解雇されるなど、日本とは大きく異なる。また、会計基準や情報公開に関する意識も徹底して

おり、株主への報告義務は四半期ごとと日本の倍である。端的に言えば、そこでは「会社は株主のもの」というシンプルな原則が貫かれているのだ。

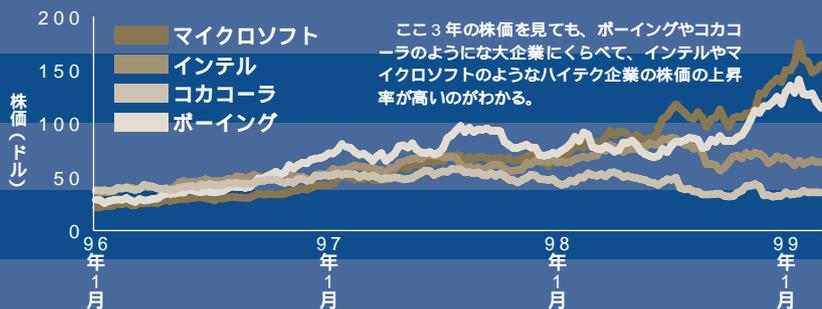
日本のビジネス界も、好むと好まざるとにかかわらず、米国のスタンダードに合わせていかざるを得ない状況の中で、米国株を買うことは、何よりも、グローバルなマネー感覚とビジネス感覚を養うのに最適なのではないだろうか。前号で取り上げた外貨預金において「日本円の定期預金とは別の金融商品と考えるべきだ」としたように、米国株を買うことは「日本株を買うこととは違う」と考えるほうがいいだろう。むしろ、これまで国内の株式売買の経験がない人のほうが、米国株には入って行きやすいかもしれない。

過去10年の日米の平均株価



ernet!!

高騰するインターネット関連企業の株価



しかも、これまでは個人にはハードルが高かった米国株の売買だが、ここにきてさまざまな状況から一気に身近になりつつある。



インターネット利用者は米国株の投資に最適?!

まず、前提条件として金融ビッグバンによって外貨や海外の銀行口座での取引が身近になったことが挙げられる。あとで詳しく述べるが、米国株を購入するにあたって海外ヘドルで送金することは必須条件になる。一定条件を満たし、登録を行えば海外への送金手数料が無料になるシティバンクのサービスが要注目と言えるだろう。さらにシティバンクでは、外貨購入がインターネット上から可能なのだ。

次に米国では、クルマや航空機といった伝統的な製造業よりも、デジタル関連株が好調なこと。ここ1年ほどは特に上昇率が高く、注目されているのがインターネット関連株なのだ。日本のユーザーにもおなじみの、マイクロソフト、デル、シスコが「インターネット御三家」、ヤフー、AOL、アマゾンコムは「新

御三家」と称され、後者はいずれも過去1年で4~5倍の上昇を見せている(①~③)。インターネットユーザーは、文字どおりエンドユーザーとしてこれらの企業の製品を使ったり、サービスを受けたりしているはずで、マーケットの状況を身を持って体験していることになる。

また、日本在住の私たちにとって、米国株に関する情報は、インターネット上のものをもっとも早くで充実していると言える。リアルタイムな株価情報のもとより、データ分析のためのサイト、日本語による情報を提供するサイトなど、証券会社の窓口とは比較にならない量と質の情報が用意されているのだ。



そして、インターネットと米国株式投資を直接結びつける最大の要素は、オンライン証券会社の存在だ。米国では1975年の売買手数料自由化をきっかけにディスカウントブローカーが出現し、90年代中期以降はインターネットの爆発的普及に伴いオンライン証券会社が登場した。98年には、個人の株取引の全体の20%以上を占めるまでになっている。米国でのオンライン証券会社の数はすでに100社近くにのぼり、それをランク付けするサイト

も現れているほどだ。

米国株の好況が今後どれだけ続くかは誰にもわからないが、日本人にとって米国株の取引がつかないほど身近になったことだけは確かだ。インターネット関連株だけでなく、ディズニーやナイキといったおなじみの銘柄が揃っているのも国内の市場とは違った魅力だろう。ただ、くれぐれも自らのリスク許容度やトータルな目的から外れない範囲での運用を心がけたいものだ。

関連サイト

「NIKKEI NET 株価サーチ」日本経済新聞
<http://stock.nikkei.co.jp/average/>
 日米の株価指数

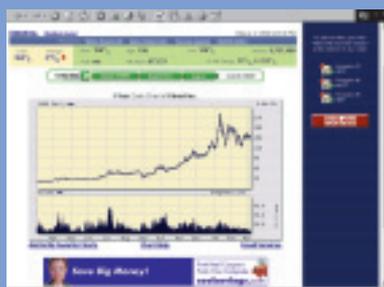
「Free Real Time Stock Quotes and News」Free Real Time.com
<http://www.freerealtime.com/>
 無料の会員制リアルタイム株価情報

「ストックマスター」Marketplace.net
<http://www.stockmaster.com/>
 株価の分析

「World Stock Journal」CSJ
<http://www.esj.co.jp/ws/j/>
 日本語での海外投資情報

「Internet Broker Scorecard」Gomez
<http://www.gomez.com/Finance/Brokers/Scorecard/index.cfm?cat=1>
 オンライン証券会社のランク付け

ハイテク「新御三家」の過去1年の株価 BigChartより <http://www.bigcharts.com/>



① ヤフー (米国)
http://www.bigcharts.com/quickchart/quickchart.asp?sid=0&o_symb=yhoo&symb=yhoo&time=8



② アマゾンコム
http://www.bigcharts.com/quickchart/quickchart.asp?sid=0&o_symb=amzn&symb=amzn&time=8



③ AOL
http://www.bigcharts.com/quickchart/quickchart.asp?sid=0&o_symb=aol&symb=aol&time=8

手数料だけではない、 オンライン証券会社の選び方

米国でオンライン証券会社が本格的に活動を始めてから、まだほんの2年ほどしか経っていない。急成長している分野だけに競争も激しく、ユーザー側としてもしっかりした目で選択する必要がある。まず最初に気を付けなければならないのは、DLJ DirectやDiscover Brokerage などのように顧客（投資家）を米国在住者に限っている会社があることだ。なお、これらは日本人でも米国に居住していれば取引できる。

次に気になるのは、やはり売買手数料だろう。別表のように、5ドルから30ドル近くまで、かなりの幅がある。この手数料にも種類があり、基本となる価格とは異なる場合があるので注意が必要だ。主な違いには、注文の際に売買価格を指定できる「指し値」(Limit Order)と、売買価格を指定せずに時価で売買する「成り行き」(Market Order)とがある。売買が成立しにくいという面はあるものの、自分の希望価格で売買が指定できる「指し値」は便利なので、これが割安で使えることは、証券会社の選択基準として大きいと言える。

しかし、手数料だけで選ぶのは得策ではない。証券会社に直接英語で電話をして問い合わせをするつもりの方は別として、多くの方はオンラインで取引のほとんどを行うことにな

米国の主なオンライン証券会社

(99年3月1日現在)

社名	URL	売買手数料	
		成り行き	指し値
Ameritrade	http://www.ameritrade.com/	8ドル	13ドル
Brown & co.	http://www.brownco.com/	5ドル	10ドル
Charles Schwab	http://www.schwab.com/	29.95ドル	29.95ドル
Datek	http://www.datek.com/	9.99ドル	9.99ドル
E*TRADE	http://www.etrade.com/	14.95ドル	14.95ドル
Suretrade	http://www.suretrade.com/	7.95ドル	7.95ドル

手数料は1000株の取引時のもの。売買株数や市場によって手数料が異なる場合もある(詳細は各社ウェブに)。

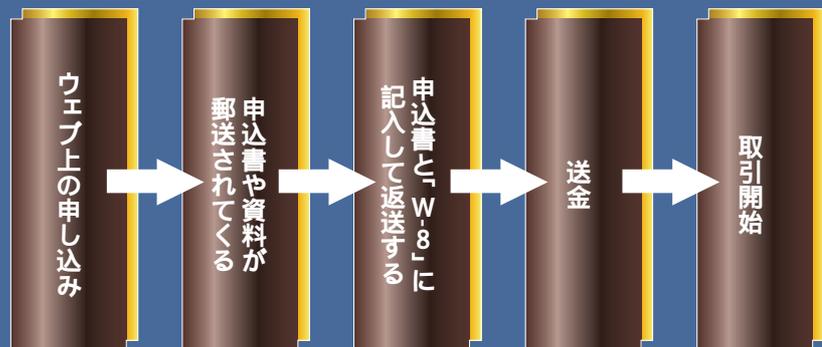
るはずだ。ということは、ウェブの使い勝手や反応速度、メールによる問い合わせに対する返信の状況、システムの信頼性なども重視しなくてはならないのだ。ここでは、米国で米企業や株値の分析を専門にコンサルタントを営む荒井拓也氏のサイト「Benkei USA」を参考にしてみよう。「手数料の合理性ならSuretrade。しかし、口座開設時のトラブルが多く、顧客サービスに難あり。Ameritradeもよいが、システムがやや遅れている。初心者向けに1つ選ぶとしたらDatek。割高でもファーストクラスのサービスを期待するなら総合ナンバーワンのCharles Schwab。手数料とサービスのバランス、ビジネスクラス的な位置付けがE*TRADE」ということで、

ここではDatek(④)を例に、取引開始までの流れを見ていくことにしたい。

Datekで取引口座 開設にチャレンジ

まずは、Datekのウェブをじっくりと見よう。右上から、会員用のログインボタン、入会申し込みのアプリボタン、プルダウンのファーストメニューが並んでいる。左にはサイト内の検索エンジン、その下にはメインメニューが続き、中央の本文部分には「無料のリアルタイム株価情報など、投資に必要なすべてをウェブ上でご提供します。(中略)お客さまのご注文が60秒以内に実行されない場合は、手数料を無料にいたします!」という、

取引開始までの流れ



米国非居住者には「1001FORM」という書類の提出を義務付けている証券会社もあるが、Datekでは不要。詳細は下記URLに。
<http://www.datek.com/helpdesk/forms/w8a.html>



④「Datek Online」DATEK ONLINE
Datekのトップページ
<http://www.datek.com/>

力強い文言が書かれている。この、60秒ルールは他の証券会社ではあまり見られないサービスで、システムへの自信をうかがわせる。

検索エンジンのすぐ下の「Account Demo」をクリックすると、会員登録をしてログインしたあとの画面が、導入部分からポートフォリオ(口座情報) 値段の確認、注文の順にアニメーションで紹介される。次に、トップページの左中あたりのメニューから「Help Desk」を選び、さらに「FAQ」に進もう。オンラインで取引をすることのメリットから始まり、成り行きと指し値注文の違い、預けた資産に対する保証が250万ドルまでであること、ミューチュアルファンドの基礎知識などが書かれている。

このあたりまで見てくると、ウェブの反応速度やインターフェイスのデザインに対する好みなどがわかってくるはずだ。証券会社の選択には、ある程度慎重を期すべきだが、あとから別会社に資産ごと移行することは、それほど手間や手数料が必要になるわけではないので、試しに1つ入ってみるのがよいだろう。



ここからはステップバイステップで、申し込みの流れを具体的に追ってみよう(ウェブでは「Help Desk」の「Open an account」を参照)。まず最初に、ウェブ上でオンライン

申し込み用紙の記入(Datek)



ウェブでの申し込み内容が反映されている。内容を確認してサイン(1)と日付(2)を記入。

申込書に記入する(右の画面)。

Datekのトップページの「Apply Now」から、プルダウンメニューで「Individual」を選択。名前、住所、職業、年収などを記入する。これは慎重に行おう。ここで記入した事項がそのままプリントアウトされ、後日、入会申込書として郵送されてくるからだ。ここで重要なのは「US Citizen」の項で「No」を選び、国籍を「Japanese」とし、「Social Security#」を空欄に、「W8 Form will be returned」の欄にチェックを付けることだ。

記入し終わったら「Submit Application」をクリックする。確認の電子メールが来れば、オンラインの申し込みは完了だ。1~2週間で、ユーザーネームとパスワードを含んだ口座開設キットが郵送されてくるはずだ。キットには、Reference Guide、W-8 フォーム、Account Application などの書類が入っている。同封のユーザーネームとパスワードを使うと、3週間は無料でリアルタイムなNASDAQなどの株価情報が見られる。その間に正式な申し込みをすれば、もちろんフルサービスが受けられるようになるわけだ。

キットの中から返送する必要があるのはAccount Application(左下)とW-8 フォーム(次ページ)だ。最低で2000ドルの資金を送金小切手などで同時に送付すれば、それが受け付けられたい取引が可能になる。送金小切手の支払い先はReference Guideの4ページを参照。また、送金小切手などを送る場合は、Datekが指定したユーザーネームも記入しておく必要がある。筆者は後述するシティバンクの海外送金手数料無料サービスを使うため、この時点では送金しなかった。

「Account Application」(左写真参照)は正式な口座開設申込書にあたる。内容を確認のうえ、下部にサインして日付を入れよう。この書類とW-8はサインなどの確認のためにも、送付する前にコピーを取って保存しておくべきだろう。W-8 フォームに関しては、次ページの記入例を参考にさせていただきたいが、これがないと米国在住と見なされて必要以上の課税をされる場合もあるので、必ず送ること。

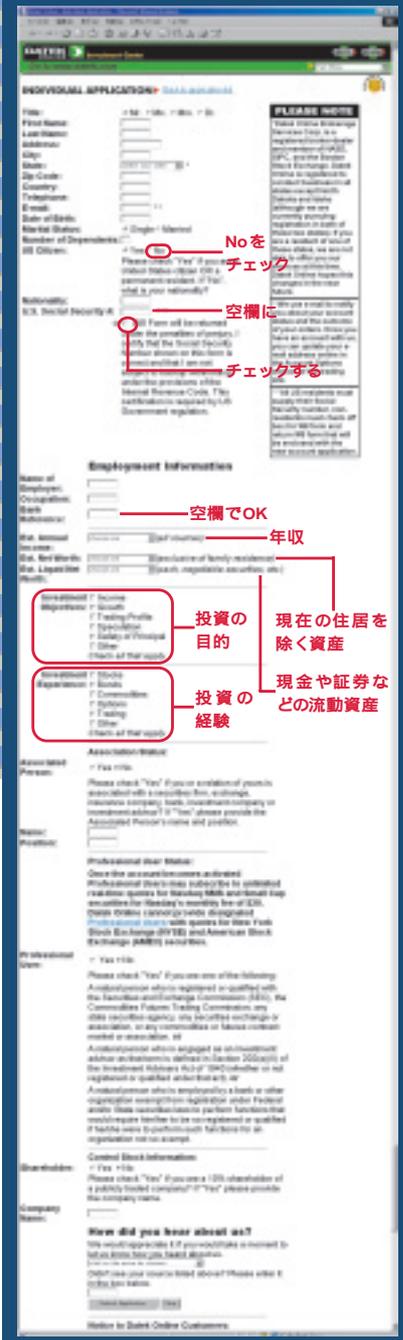
関連サイト

「Benkei USA」荒井拓也
<http://www.benkeiusa.com/contents/guest/main.html>

なお、複数の証券会社に口座を持つ場合は、その都度W-8の提出が必要になる。なお、フックスでの送信は不可。

Datekの申し込み方法

注意が必要なポイントには解説を入れた



Money meets the Internet!!

実践! インターネットユーザーのためのマネー入門

通常の海外送金には 4000円ほどの手数料が

さて、申込書とW-8を郵送したあと、ウェブ上には「口座番号がEメールされる」と書かれているが、筆者の場合はそのメールが来なかったうえに、送られてきたパスワードでもまったくログインできず、資金の振り込みに必要な口座番号が不明だった。そこで申し込みから数週間してサポートにメールで問い合わせたところ、24時間以内に返事があり、その直後からログインできるようになった。どうもオンライン証券会社においては、入会時にこの程度のトラブルは珍しくないようだ。その意味でも、メールによるサポートの対応の早さ、的確さなどを重視するべきだろう。

取引開始のためには、あとは資金を証券会社の口座に送金する手続きが残っているだけだ。送金方法には、銀行で作成する送金小切手、マネーオーダー、電信振込があるが、普通に行えば最低でも3000~4000円の手数料がかかってしまう。Datekでは、米国外の銀行からの振り込みには15ドルの別チャージも必要だ。数千円といえども、今後何回も送金することを考えるとバカにできない金額になる。そこでおすすめなのが、シティバンクの海外送金手数料無料サービスだ。一定の条件を満たし、事前に登録しておけば、24時間電話で送金の指示を出すことができ、しかも手

数料が無料なのだ(下コラム参照。Datekの15ドル別チャージは別途必要)

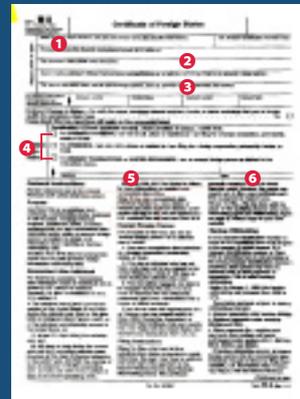


口座の維持には 最低2000ドル必要

Datekの場合、送付する資金は最低2000ドルと書いたが、これは口座維持のための最低額なので、実際に株を購入する場合には、必要な額を口座に持っていなければならない。E*TRADEなどの証券会社では、この資金に金利が付くサービスもあるので、投資にあてる額が多い場合などは検討に値するだろう。

送金手続きが済み、ウェブ上の自分の口座でも金額が確認ができたなら、いよいよ銘柄を選んで株を購入することになる。この連載では来月号でその部分をお届けする予定だ。その前に、オンライントレーディング初心者であれば、もう一度Datekのウェブに戻り、トップページの左側のメニューから「Investing Facts」をクリックしてみよう。そこでは、インターネットが、株の売買を素早く、簡単なものにしたことによって引き起こされるリスクーな現象がきちんと説明されている。たとえば、極端な株価の変動、市場がオープンする

W-8の記入(Datek)



① 名前。② 自分が居住して住民税を支払っている居所を記入。③ 郵送のための住所が「②」と異なる場合のみ記入。④ 米国非居住者のため、利子や配当に対する米国の課税が免除されるという自己申請。⑤ サイン。⑥ 日付。

時間での大量の売買など、取引が手軽で瞬間的なものになった結果として、リアルタイムな株価表示システムといえども、追いつかない場合があるということだ。

さまざまなリスクがありながらも、オンライントレーディングは今後盛んになる一方で、日本人の投資に対する概念を一変させてしまうだろう。そして、その変革のもっとも近くににいるのは、インターネットユーザーなのだ。

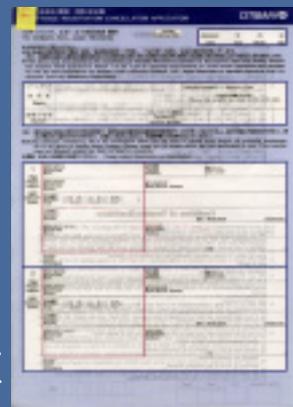
オンライン証券トレードと抜群の相性

シティバンクの海外送金サービス

シティバンクでは、送金の2か月前の月間平均残高(外貨預金や定期預金も含む)が1日平均100万円を超えていて、送金先が事前に登録されている場合、通常は4000円かかる海外送金手数料が無料になる。現在は送金の指示はテレホン bankingのみで、インターネットからはできない。受け付けは24時間だが、実際の手続きは日本国内の営業時間内

になる。送金先の登録は国内外合わせて最大10か所までで、手数料が無料になるのは海外送金だけだ。送金先を登録する場合には、オンライン証券会社の銀行口座情報とは別に、ユーザー自身の名前と証券口座番号も必要になる。これは、銀行の口座と証券口座が区別されているためで、通常「for further credit to」という記述の後に、自分のデータを記入する。

送金先の登録用紙。テレホンサービスを使って、用紙をファックスで受け取ることもできる。





個別株の投資は“BUY & HOLD”が基本

今の米国株は流動性が過剰で、根拠が薄いのに高値を続けている部分があると思います。ファンドマネジャーは、どこかに投資をしなければなりません、アジアもロシアも南米もダメとなると、やはり米国内ということになるのです。かつての日本のバブルのように、ちょっと浮かれている側面があるのは否めません。

株を買うこと自体は悪いことではありません。資産ポートフォリオの中には必要でしょう。ただ、業種や国などをできる限り分散させることでリスクも分散するのですから、本格的に幅広く分散させようとすると巨額の資金が必要になってしまいます。そこで、私は個別株よりもファンドを基本に考えるのです。アマゾンコムやファーとイーベイをそれぞれ買っているからといっても、それは分散投資とは言えません(笑)

投資の初心者、株の仕組みなどにリアリティーを持つための「勉強」としてというなら、個別株も意味があるでしょう。ダウやNASDAQの平均を見ながら、自分の持っている銘柄と比較することで、市場の傾向などをつかむことができるからです。

日本の一般的な投資家が資産運用として米国株を買うのであれば、IBMやプロクター&ギャンブル(P & G)、ジレットなどの安定した需要のあるマーケットリーダー的存在であるビジネスの株(ブルーチップ)を中長期で持つのがいいでしょう。「BUY & HOLD」が基本です。オンライントレーディングはスピードが売りものですから、そういう中長期の戦略がなじまないのではないのでしょうか。

NASDAQのインターネット関連株などであれば、あくまでも余裕資金で、それこそパチンコに行くくらいの気分で臨むべきです。保



リチャード・マイケル・ナッシュ
国際資産運用コンサルタント。著書『日本人のためのオフショア金融センターの知識』(ダイヤモンド社)も好評。

守的な私の観点から見れば、それは「投機」に近いとさえ思います。(談)

マネー入門者のためのキーワード解説

日経平均株価

アメリカのダウ・ジョーンズ社の修正算式をもとに算出した225銘柄(東京証券取引所第1部上場銘柄より抽出)の平均株価。長期にわたる株価の推移を見るのに便利で、日本の中心的な株価指標となっている。

NYダウ

「ダウ工業株30種平均」のことで、米国のダウ・ジョーンズ社が発表する株価指数をいう。株式分割などで生じる権利落ちを修正する算式を持ち、1928年の発表以来、指数の連続性が保たれている。

ディスカウントブローカー

一般の株式売買手数料より割安な手数料で注文を受ける証券会社。1975年に米国で手数料が自由化されたのを契機に登場した。コスト削減のために営業経費などをかけず、電話やインターネットで顧客からの注文を受け付けるのが一般的。日本でも99年中に手

数料が自由化されるのを受けて、多くのディスカウントブローカーが登場すると見られる。

指し値

株式の売買注文を出すときに顧客が指す値段のことから、値段を指定した注文のことを指し値注文という。

成り行き

指し値注文に対して、値段を指定しない注文のこと。値段を指定しないため、注文が成立しやすいと言われる。

ブルーチップ

もともとは米国の株式市場で健全な財務内容を維持している優良株のことだが、現在では世界主要株式市場での代表的な優良株のことをいう。

NASDAQ

ナスダック(National Association of

Securities Dealers Automated Quotation)とは米国の店頭株市場で、銘柄の売り値や買い値の情報をコンピュータを介して端末機に自動表示するシステム。投資家や証券会社は、いつでも店頭での相場を知ることができる。

次回予告

米国株の銘柄選びにインターネットを徹底活用

口座開設、資金振込みが済んだあとは、いよいよ本格的な銘柄選び。言うまでもなく、インターネットがもっとも威力を発揮する部分だ。国や地域のマクロな経済動向から、会社の役員が自社株をどれだけ売買しているかといった個別情報まで、日本とは桁違いの情報がネットに公開されている。次号では、初心者向けの米国株に関する情報収集術をお送りする。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp